

中学受験 国語 記述答案の書き方ターゲット集 物語文編 20選 サンプル

【01】麻布中 平成20年度 全問

【導入】

「鏡」＝真実を映すものを比喻表現にして構成された物語文です。典型的な比喻表現なので、内容理解に苦しむ文ではありません。むしろ、**比喻だらけの文章**です。設問も同じテーマ(＝自立した友達関係の形成とありのままの姿の発見)について、角度を変えて設定されています。

よくわかる内容紹介、読み取りポイントがすぐわかります。

ちゃん、同級生のりんさんの3人です。他に麻布中出身の女子校生、同級生の千夏ときいちゃんが登場します。ほとんどの登場人物は、むしろ、女子校、特に桜蔭や雙葉レベルの女子校生です。

他の物語文の読み取りにも役に立つ視点が身につきます。

おばちゃんの抱えている**悲しみ**、りんさんの**人柄**を読み取ります。特に、りんさんの人柄は、灯子が思っていたような人柄だけではなく、バスの中での不思議な体験(幻想)を通じて見えてきた人柄も、きちんと読み取ります。そして、読み取りの最大のヤマ場は、このバスの中での不思議な体験(幻想)です。

灯子にとって、りんさんはいっしょにいても何か遠い存在でしたが、最後はどこにでもいそうな身近な存在になっていくプロセスも読み取りましょう。りんさんが**変化した**のではなく、りんさんを見る灯子の**見方が変化した**のです。そのきっかけになるのが、鏡に映るりんさんの姿です。

仲間はずれにされる怖さ、その一方で自分の意志で行動したいという**自立心**の間で揺れ動く心情を読み取ります。

登場人物の心理は、「表面的には……だが、実際は……だ」という**対比的**または**重層的**に構成されています。

【08】桜蔭中 平成21年度 第2問

【導入】

これは、21年度駒場東邦の入試問題と出典箇所がほとんど同じです。夏休みの深川を舞台にしたお話です。

祖父エンジと千恵との関係、祖父と父との関係、父と千恵との関係を、それぞれの**生活意識の違い**(例えばエンジは深川にこだわっていること、父が実家を飛び出した理由、千恵が世田谷のマンションを嫌っている理由)を理解しながら、読み取ります。

永代橋は、2つの世界(昔ながらの下町の世界と高層ビルが林立する世界)を結ぶものとして(**象徴表現**または**比喻表現**)読み取ります。

【04】開成中 平成20年度 第1問

【内容】

中学生は、先生にあだ名をつけたがりです。その中には、機知に富んだものもあります。私が通学していた中学校の校長はギャボ、図画の先生は山桜というあだ名でした(注：その由来は本文を読んでください)。しかし、体操の先生は「豚ちゃん」という平凡なあだ名をつけられていました。体つきが小柄で肥っていたからです。

豚ちゃんは剣道の師範ですが、強い上級生を相手にすると攻撃されっぱなしで面目は台なしです。しかし、負け惜しみはせず、上達したことをニコニコしながらほめます。その様子が、人のいいおじいさんのようで親しみが湧いてくるのです。

単なるあらすじではなく、場面、心情を理解する読み取りができます。

豚ちゃんはどうかやどどちらかの足の指がないようです。が、その歩き方や夏でも白足袋をはいていることなどから、そう信じられています。

ある日、道場で豚ちゃんにわざとぶつかって綿が詰めていると思われる足袋の先を踏んで確かめようと、無礼で卑しいことを興味本位に言い出す者が出てきました。

その冒険心は中学生たちのいたずら心をあおります。私も野次馬精神で声援を送ります。一方で、そういういたずらは悪いと思う中学生は、臆病者という冷たい視線を浴びなくてはなりません。彼は決然として勇気を出して豚ちゃんの前に進み出ます。

彼は、礼儀正しいけれどもずる賢い態度で豚ちゃんにあいさつします。もちろん、私には直接彼のように試す勇気はありませんが、そのいやらしくて陰険な好奇心を共有していました。

【08】桜蔭中 平成21年度 第2問

【内容】

千恵は、父から、夏休みの間は深川に住む、祖父で大工のエンジと生活するように言われます。

千恵は、エンジと散歩をしています。ただ、エンジの服装がだらしないので、サラリーマンがたくさんいるビルの前を通るときは、いつも恥ずかしい思いをします。永代橋にたどり着いても、エンジは渡ろうとしません。

永代橋の向こうは、大きなビルが林立している別世界であり、エンジのようなだらしない恰好の人はいません。隅田川の川幅よりも遠い世界がそこにあります。そして、千恵は、大きくて立派なビルを眺めていると、なぜか見捨てられたような気がしてさびしくなります。

千恵は、エンジの家の近所の子供たちと遊ぶようになります。エンジが建てた家が多いのでびっくりします。そして、話が千恵のマンションと千恵の父に及びます。エンジは千恵の父(つまり自分の息子)の話になると、不機嫌になります。

8月になって、父が千恵を引き取りに来ます。父とエンジはさすがに親子で、動作がそっくりです。年寄のエンジに若いエンジが向かい合っているようです。ただ、2人だけで千恵をどうするかを勝手に決めているようです。

千恵は、エンジの家に来たばかりのころは、エンジの家の何もかもが嫌でしたが、今では、自分の家のように感じています。

千恵の心の中は、複雑です。何かが暴れています。もちろん涙が出ています。千恵は、いやたいしたことではなく、夏休みの間におじいちゃんの家に行っていただけで、案外楽しかったのだと自分に言い聞かせます。

父は、2階にある千恵の部屋に入ります。そして、父はずっと過ごしてきた自分の部屋に千恵を案内します。そこは何も変わっていません。

【01】麻布中 平成20年度 全問
【解説&解答】

■問6の1■

【問題】

傍線5に関して、これまで灯子は、りんさんをどのような人物だと考えていたかを3つに分けて説明する問題です。

【ターゲット】

👉場面&言動&様子&人物理解

1つ目の波線から、意志が強く、正しいことをつらぬく人物像が浮かんできます。

2つ目の波線から、頑張り屋で最後まであきらめない人物像が浮かんできます。

3つ目の波線から、周囲に左右されず、精神的に大人の人物像が浮かんできます。

👉表現理解

この問題は、該当箇所の文言や表現から、そこには書いていないけれども、人柄や性格、心情に関する適切な語句を読み取って記述するという典型的な記述問題です。この「適切な語句」の語彙力が必要です。例えば、「強い意志」や「大人びた精神」を使えるかがポイントです。

【正解&記述例】

強い意志の持ち主で、正しいとおもったことを堂々としてつらぬく人物/最後まであきらめないでがんばり続ける人物/周囲の状況に左右されず、精神的に大人びた人物。

文章の読み取りと同時に記述のコツがわかります。

【04】開成中 平成20年度 第1問
【解説&解答】

■問5■

【問題】

傍線5に関して、先生に叱られて「問題文の読み取りが豊かになる丁寧な解説です。解説＝読解力と記述力の向上が目的という視点で書かれています。」

【ターゲット】

👉心情理解&心情表現語

先生に叱られた生徒は、豚ちゃん、いたずら者、そして自分自身に対して次の3つの心情を抱いていると想像できます。そして、その涙の意味は、豚ちゃんに対しては感動、いたずら者に対しては怒り、自分自身に対してはもどかしさややりきれなさです。

その1: 豚ちゃんは、いたずら者がわざと足を踏んで、足の指がないことを確かめようとしたことに気づいています。そんな卑怯な生徒でもかばってあげる、とても優しく心が広い人です。そのような豚ちゃんの人柄に胸を打たれたので涙を流したのです。

その2: いたずら者の行動の目的と手段＝足指の有無を剣道のけいこで確かめることは陰険で下品です。涙にはそのようないたずら者に対する怒りの意味が込められています。

その3: 自分は、先生のことを思ってこのような手荒い行動を取った理由を説明しようとする、実は先生の身体的な障害にふれなくてはなりません。しかし、それは先生を傷つけることになるのでとても難しく、黙って我慢するしかできない自分にもどかしさとやりきれなさを感じて涙を流しています。

このように、誰に対して何が原因で涙を流すのかを整理することが大切です。

【正解&記述例】

豚ちゃんは、いたずら者がわざと足を踏んで、足の指がないことを確かめようとしたことに気づいている。そんな卑怯な生徒でもかばう豚ちゃんのとても優しく心が広い人柄に胸を打たれた。また、豚ちゃんの足指の有無を剣道のけいこで確かめるいたずら者の行動は陰険で下品である。涙にはそれに対する怒りの心情が込められている。さらに、自分は、先生のことを思ってこのような手荒い行動を取った理由を説明しようとする、実は先生の身体的な障害にふれなくてはならない。しかし、それは先生を傷つけることになり、とても難しいので、黙って我慢するしかできない自分にもどかしさとやりきれなさを感じている(実際は、この3分の1程度の記述量ですが、参考までにとっても長く書きました)。

【11】 駒場東邦中 平成 21 年度 全問
【解説&解答】

■問 13■

【問題】

傍線 11 に関して、「千恵がエンジの手を強く強く握りしめた」ときの千恵の心情を、本文全体をふまえて記述する問題です。

【ターゲット】

📖心情理解&心情表現語

文章全体から、エンジは、千恵に対して愛情と思いやりを持って接しています。千恵は、自分の心を見取ってくれるエンジに感謝しています。そして、夏休みの間に2人のきずなが強くなったと実感し、これからもエンジを大切にしていこうと決意します。その心情が、エンジの手を強く握りしめるという行動に表れています。

この問題では、愛情やきずななどの心情表現に関する語彙が必要です。また、「手を強く握りしめる」行動に対する心情＝決意は必ず書かなければなりません。

このように、心情と行動の表裏一体の関係を読み取ります。

【正解&記述例】

自分に対して気づかいと愛情、思いやりを持って接してくれたエンジに深く感謝している。そして、夏休みの間に2人のきずなが強くなったと実感し、エンジを大切にすると決意している。

【19】 学習院女子中 平成 21 年度 A 入試 全問
【解説&解答】

■問 6 ■

【問題】

傍線 6 に関して、「僕にはそこがそんなに静かなのが変に思えた」理由をわかりやすく説明する問題です。

【ターゲット】

📖設問理解

そこ＝「お母さんがいるお茶の間」です。

設問の理解も合格答案を書くために必要です。

そんなに静か＝「お湯がいい音を立てて煮えている」ほどの静けさです。

📖場面&言動&様子&人物理解

普通であれば、変に思うはずはありません。しかし、この場面では、八っちゃんが死ぬほど苦しんでおり緊迫した状況にあります。その状況が、このお茶の間では全く感じられないから変なの

です。

記述スタイルを身につけることが合格答案作成の王道！。

記述スタイル&流れ&骨組み ←

ここは、対比型+理由型の記述スタイルで書きます。「向こうのほう(八っちゃんがいるところ)=緊迫、緊張、こちらのほう(母がいるお茶の間)=静寂・緊張感ゼロ」の対比です。

記述の流れは、「向こうでは<A>なのに、こちらの方はだから。」です。

【正解&記述例】

向こうのほうでは八っちゃんが碁石を飲み込んで死ぬほど苦しんでいるのに、このお茶の間ではその緊張感が全く感じられないから。

付録1：物語文の記述力が身につく7スタイル&8テクニック集

【1】記述答案の7スタイル

(2) 心情型(心情変化型)/主張型

- ・物語文では、最もよく出題されるかたちです。
- ・ほとんどの問題がこのスタイルにあてはまりますが、要約型、理由・根拠型、対比・比較型、比喩型と組み合わせて記述することが多くあります。
- ・(参考：説明的文章では、筆者の主張を読み取って記述します)

(3) 理由・根拠型

- ・心情型と並んで入試問題で最もよく出題されるかたちです。
- ・場面や状況に対応した心情や行動の理由・根拠を記述します。
- ・(参考：説明的文章では、あることからの理由・根拠を記述します)

記述の7スタイル&8テクニックが付録になっています。ここを読むだけでも、合格答案の書き方がわかります。

【2】心情表現の8テクニック ←

(3) 「~と同時に…という(対照的な)心情が入り混じった状態」型

- ・相反するまたは対照的な2つの心情表現を並べる型(いわゆる葛藤型)で、その2つがバランスを取っているタイプです。
- ・ある心情グループで50%、それとは対照的な心情グループで50%を占めます。
- ・例：みんなを見返してやりたいと気がはやると同時にほんとはできるのかという不安が入り混じった気持ち。
- ・このように、このタイプの心情表現は、「対比型」の記述スタイルで書くことができます。

(5) 「マイナス心情からプラス心情への変化」型

- ・例：不安から安心へ。

(6) 「プラス心情からマイナス心情への変化」型

- ・例：信頼から不信感へ。

心情表現用語の語彙力を高め、また、実際に使える用語集になっています。

付録2：文学的文章の記述問題で使える心情表現用語集

【1】「喜怒哀楽」分野

●プラス傾向の心情語●

<重要語>

- 明るい うれしい 幸せな 楽しい 優しい
 喜ぶ
 <難語>
 すがすがしい そう快な 晴れ晴れする

●マイナス傾向の心情語●

- <重要語>
 哀れな イライラする 怒る 悲しい 苦しい
 孤独な さびしい つらい 憂うつな
 <難語>
 いら立つ 切ない わびしい

【2】「安心・安定・満足」分野

●プラス傾向の心情語●

- <重要語>
 安心する いやされる 有頂天になる 落ち着く 機嫌がいい
 充実感を持つ 達成感を持つ ほっとする 満足する 愉快的な
 <難語>
 安どする くつろぐ 上機嫌な なごむ

●マイナス傾向の心情語●

- <重要語>
 あわてる うんざりする 落ち着かない がっかりする 気がかりな
 心細い 困る 心配する つまらない 腹立たしい
 不安だ 不快だ 不機嫌だ 不満だ 不愉快的な
 もの足りない
 <難語>
 心もとない

心情表現用語と関連する語彙を集めて、随筆文的的確な読み取りにつなげます。

【9】その他 ←

●「感」を使った重要語句●

- 感覚…五感(見る・聞く・味わう・かぐ・触れる)を通じて知ることや感じること
 感受性…外のものごとから素直に影響を受ける心のはたらきの程度や度合い
 感傷…わずかなことに感じやすく涙もろくさみしさを感じる
 感性…感受性とほぼ同じ使い方
 感服かんぷく…とても感心して心から従うこと
 直感…説明なしにピンとくること

●「情」を使った重要語句●

- 実情…表面には現れにくい本当の事情(感情の意味はない)
 人情…人として普通持っている感情
 薄情はくじょう…愛情が少ないこと
 非情…人間らしい感情を持たないこと
 風情ふぜい…味わいや趣おもむきがある様子(感情の意味はない)